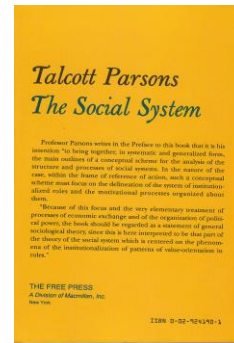
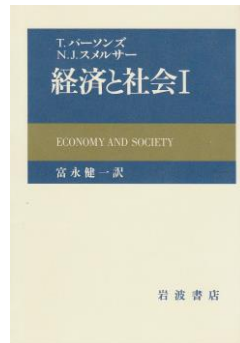
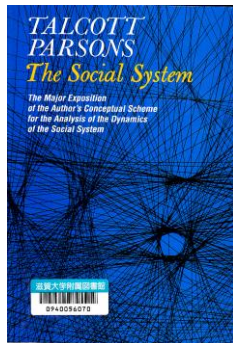
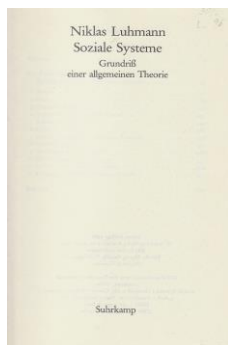


社会システム学科案内

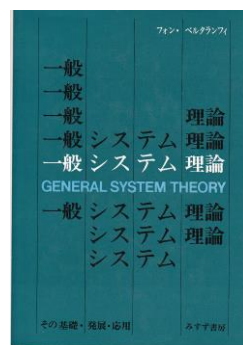
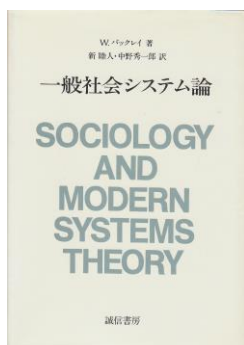
2019（平成31）年度



S O C I A L



S Y S T E M



社会システム学科

経済現象は、経済分野のなかで純粹・単独に生起するのではなく、一見経済とは関係のなさそうな分野との関連も有しており、問題の種類によってはそれらの知識が不可欠になります。社会システム学科は、経済学部の中にありながら、上記の意味で、経済そのものというよりも、経済と他の分野との「関係」に関する教育・研究を行っています。したがって、経済・社会・法・政治等を学ぶ社会科学、言語や歴史・文化等を学ぶ人文科学、自然やコンピュータ等を学ぶ自然科学など、幅広い分野を研究対象としています。これら複数の学問分野に触れることで、それぞれの分野での専門知識とその土台となる教養を修得し、同時に、社会の構造や関係のシステムティックな理解を通じて、現代社会のさまざまな出来事を総合的に読み解くための応用力を培っていきます。

社会システム学科は、本学部のなかでも所属教員のもっとも多い大規模学科で、以下の4つの講座から構成されています。

社会システム講座

社会、政治、行政、環境、国際関係等々の分野における諸アクターの活動やその全体構造に焦点を当て、現代社会を読み解くための基礎理論を学びます。

法システム講座

人々の権利・義務の関係に焦点を当て、契約関係、雇用関係、租税といったさまざまな課題を法律の観点から学びます。

思考情報システム講座

経済や社会を構成する基本単位である人間の「知」のあり方について多角的に学びます。そして「知」から人間の「心・技・体」の研究に及んでいます。

国際文化システム講座

世界のさまざまな地域・社会について言語・文化や歴史の観点から学びます。また、文化について研究するためのさまざまな視座・理論なども学びます。

ここで「講座」というのは「学科」の下に置かれた下部組織で、カリキュラムを編成する際、年度ごとに提供する科目の構成などに責任を分担する単位です。学生諸君の所属とは関係ありませんが、相互に近接・類似した分野がまとまって構成された単位ですので、履修計画をたてる際に、みなさんの問題関心に応じて、この「講座」という区分を手がかりにするとよいでしょう。

〈教員紹介欄の項目〉

①	氏名	よみ	②	役職	(似顔絵)
③	メールアドレス		④	部屋番号	
⑤	オフィスアワー・タイム				
⑥	専門分野、研究領域の説明				
⑦	今年度担当する授業科目				
⑧	新入生へのメッセージ				

社会システム講座

(1) 講座の趣旨

人間の社会とは、いったい何なのでしょう？ ひとびとが集まれば、それが社会だ、といえるのでしょうか？ ちょっと考えてみましょう。ひとびとの集まり、ということだけなら、彦根駅前の雑踏もまたひとびとの集まりです。しかしこれを「社会」と呼ぶに値するのでしょうか？ ……いきなり大きな質問を投げかけましたが、よく考えてみると、社会というのはそれほど自明なものではないようです。

このような、社会、という不思議な対象を研究対象に据え、「システム論的思考」にもとづいてトータルにとらえる。そしてそのための理論的枠組みを理解する。さらにそれを、経済をはじめ、政治、心理、道徳、環境、行政、消費、等々に結びつけていく……。これが本講座のねらいです。

ここで「システム論的思考」というのはそもそも何なんだ？ と思われるかもしれませんが。おおざっぱには、構成要素それ自体より、要素と要素の関係の方に着目する考え方が「システム論的思考」だと言ってよいと思います。水も氷も、要素を見れば同じ“H₂O”ですね。でも水と氷とでは全体としてのありようはかなり異なります。要素と要素の結合関係が違っているからです。彦根駅前の雑踏も、入学式に臨んでいる新入生の集団も、要素に着目すれば同じ人間かもしれませんが。しかし、その同じ人間と人間との間に営まれる「関係」が異なっているのです。この見えない「人間関係」を、社会を理解する際の手がかりとして、この「関係」を抽出し、それらを組み立てていくのが「システム論的」ということなのです。こう考えると、「システム論的」な「ものの見方」は、実はどんな分野にも（たとえばひととひと、国と国、ひとと文化、ひとと環境、など）通用することが理解できるでしょう。

(2) 講座の構成

本講座は、社会システム学科の中で、「社会科学の基礎」に相当する部分を担っています。講座を構成する先生方と主たる専攻分野は、次の通りです。


永田えり子 (理論社会学)	黒石 晋 (理論社会学)
宗野隆俊 (法社会学)	松下京平 (環境経済学)
大村啓喬 (国際関係論)	竹村幸祐 (社会心理学)


詳しくは次ページ以降の自己紹介を見てください（いずれも個性豊かな方々です！）。


(3) 授業科目

講座で提供している授業科目には、つぎのものがああります。

- a) 全学共通科目：社会学からの問い、政治学からの問い、人間と社会、現代社会をみる目、現代社会と政治
- b) 専門科目：社会システム原論Ⅰ・Ⅱ、環境経済学Ⅰ・Ⅱ、政治学原論Ⅰ・Ⅱ、行政システム論Ⅰ・Ⅱ、国際関係論Ⅰ・Ⅱ、社会心理学Ⅰ・Ⅱ、社会システム論特殊講義

①	永田えり子	ながた えりこ	②	教授	
③	nagata@biwako.shiga-u.ac.jp		④	505	
⑤	金曜日昼休み (12:20~12:50)、電子メール				
⑥	理論社会学・数理社会学				
⑦	社会システム原論Ⅰ、社会学概論、社会問題、現代外国語研究、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳなどを担当しています。				
⑧	<p>教育目標は「プロのゼネラリスト」。社会のあらゆる現象について、その意味、その社会に占める位置を理解でき、適切な判断を下すことができる人。既存の情報を処理して新たな情報を発信できる人、議論に勝てる人、「一分後の社会」を選択できる人。そういう人になっていただければと思っています。</p> <p>そのために、知識よりも論理性や発想法を重視します。知識は、問題に直面したときに集めても間に合うことが多いからです。身につけていただきたいのは材料の集め方、そしてその調理法なのです。</p> <p>そのために、解答よりも問題の立て方、思考過程を重視します。講義に解答を期待しないこと。社会に「正解」はありません。あるのは「回答」や選択だけです。</p> <p>履修にあたっては、話の流れを「理解すること」を眼目において下さい（話は「理屈っぽい」です）。そのためには出席して下さい。人のノートを見てもおそらく何のことかわかりません。大事なものはある概念の名前ではなく、その概念の意味、その概念が運んでいる考え方であるからです。</p> <p>みなさんの批判力、論理力、独創性に期待しています。</p>				

①	黒石 晋	くろいし すすむ	②	教授	
③	garnet@biwako.shiga-u.ac.jp		④	605	
⑤	金曜日昼休み (12:20~12:50)、電子メール				
⑥	<p>専門は“システム論”の視角による「理論社会学」で、中でも「社会構造論」「社会変動論」の基礎理論部分を主たる研究領域としています。</p> <p>とくに最近では、人間の「欲望」を社会の基本的なエネルギーと捉え、欲望の社会的媒体である「貨幣」に着目した社会理論と世界の歴史に興味をもっています。</p>				
⑦	大学入門セミナー、社会システム原論Ⅱ、外国文献研究、社会システム論特殊講義、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
⑧	気軽に研究室を訪問してください。何か役に立つでしょう。				

①	宗野 隆俊	むねの たかとし	②	教授	
③	muneno@biwako.shiga-u.ac.jp		④	5 0 7	
⑤	金曜日の昼休み (12:00~12:40)				
⑥	「私人や民間企業, 非営利団体が公共のことがらに深く関わり, 公共政策の一翼をになうプロセス」を研究してきました。				
⑦	行政システム論 I・II、専門演習 I~IV、大学入門セミナーのほか、外国文献研究、日本社会の法と政治				
⑧	常に大学の外に広がる世界に関心を持ち、20年後の社会と自分を想像して過ごしてください。社会の中心の位置に立つころ、滋賀大学で過ごした年月が皆さんを支えてくれるような、そんな学生時代をおくってほしいものです。				

①	松下 京平	まつした きょうへい	②	准教授	
③	k-matsushita@biwako.shiga-u.ac.jp		④	6 1 9	
⑤	水曜日昼休み (12:00~12:50)、電子メール				
⑥	環境問題の多くは到底自分ひとりでは解決できそうにありません。多くの人が協力しあうことで初めて環境問題は解決に向かうことができるのではないのでしょうか。では、どのような状況下であれば人々は互いに協力しあうことが可能となるのか。こういった点を踏まえて、最近では、人間関係が人々の環境保全に対する姿勢・態度に及ぼす影響について研究しているところです。				
⑦	環境経済学 I・II、環境問題を学ぶ、演習 I・II・III・IV				
⑧	七転び八起き、そして継続は力なり。人生中々うまくはいきませんが、転んでも転んでも辛抱強く続けることで初めて見えてくるものもあるのではないのでしょうか。				

①	大村啓喬	おおむら ひろたか	②	准教授	
③	h-ohmura@biwako.shiga-u.ac.jp		④	509	
⑤	金曜日の昼休み(12時-12時50分)				
⑥	国際関係論を専門としています。特に、国際・国内紛争の発生や継続の要因等について多角的に分析しています。				
⑦	基礎演習、国際関係論Ⅰ・Ⅱ、政治学原論Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
⑧	大学生活では、一見して「遠回り」に思えることを数多く経験して下さい。それがあってこそ、卒業して以降の選択の可能性が広がるのではないのでしょうか。大学生活の経験が「無駄」になるのか「財産」になるのかは、大学生のあなたによって決まるのではなく、大学を卒業した後のあなたの行動によって決まるはずです。楽をせずに、貪欲に大学生活を楽しみましょう。				

①	竹村幸祐	たけむら こうすけ	②	准教授	
③	kosuke-takemura@biwako.shiga-u.ac.jp		④	602	
⑤	木曜日の14:30-15:30				
⑥	社会心理学、文化心理学、進化心理学を専門としています。この3つの心理学は、ばらばらに見えますが、共通点があります。それは「人間は、他者との関係の中で生きている」ことに注目している点です。 主に、「文化」「集団」「協力行動」といったキーワードで研究しています。				
⑦	社会心理学Ⅰ・Ⅱ、現代社会をみる目、Society and Social Sciences、専門演習Ⅰ・Ⅱ				
⑧	4年間もあります。焦らず、どっしりと構えて、「考える」ことに時間を使ってもらえたらと思います。				

法システム講座

<法システム講座とは>

社会あるところ法あり。社会に生じる問題に法が関わりをもつことは少なくありません。法を通して社会にアプローチすることも、社会を学ぶ一つの方法となります。

法システム講座には、社会・経済に密接な関連をもつ法分野を中心に必要な科目が用意されており、これらの科目を受講することで、体系的かつ専門的に法を学ぶことができます。法を学び、法の知識や考え方を身につけることは、公務員試験や各種の資格試験、就職後のキャリアアップのための試験に必要ですが、それだけでなく、社会で生きていくうえでの力に直結しています。じっくり学べる大学4年間に、ぜひ法学の学習にも取り組んでください。

<授業科目>

○学習類型「経済社会と法・政治」と法システム講座との関係

学習類型は体系的な学びをサポートするために設けられています。法システム講座は、「経済社会と法・政治」類型に含まれる科目のうち、太字の科目の開講を担っています。

「経済社会と法・政治」類型には多くの科目が含まれていますが、各自の関心（行政や公共活動／ビジネス）に合わせて、関連が強いと思われる科目をなるべく多くとっていくことが法学の学習を深めるための秘訣です。

指定コア科目 2単位	行政や公共活動に 関心がある学生に特におすすめ		ビジネスの世界で 活躍したい学生に特におすすめ		
	法学				
選択必修コア科目 4単位以上		ミクロ経済学A マクロ経済学A	論理学	経営学 簿記会計	
選択必修科目① 8単位以上 (類型基礎科目)	憲法 行政法 行政システム論 I	民法入門・総則 国際法	物権法 社会学概論	債権法	会社法
選択必修科目② 8単位以上 (類型展開科目)	◎政治学原論 I ◎政治学原論 II ◎行政システム論 II ◎法と経済学	税法総論 税法各論 国際関係論 I 国際関係論 II	経済法 法システム論特殊講義 労働法	債権担保法 環境法	商法 有価証券法 国際経済法
選択科目	財政学総論 I ◎地方財政論 ◎公共経済学 I ◎公共経済学 II	世界経済論 国際社会学	労使関係論 金融法 社会システム原論 I 社会システム原論 II	環境経済学 I	企業統治論 管理会計総論 I 財務会計総論 I
類型認定 合計 30単位以上	◎は大学院との共通科目				


○履修の順序


上図の、上の方にあるのが基礎的な科目、下の方にあるのが発展的な選択科目です。「経済社会と法・政治」類型での学習を考えている場合には、必ず「法学」を履修しておきましょう。


選択必修や選択科目は毎年開講されるとは限りませんので、シラバスの記載を確認したり、担当教員の説明をきいたりしながら、積極的に履修していきましょう（特に、選択必修科目①には、1回生からチャレンジできる科目もあります）。


夏・冬の集中講義の開講情報にも注目しましょう。

①	原 秀六	はら ひでろく	②	教授	
③			④	404	
⑤	月曜日の昼休み (12:00~12:50)				
⑥	商事法				
⑦	商法など				
⑧	素朴な疑問を大切にしてください。				

①	増山 裕一	ますやま ゆういち	②	教授	
③	yuuichi-masuyama@biwako.shiga-u.ac.jp		④	416	
⑤	金曜日の昼休み (その他の時間は e-mail にて事前連絡)				
⑥	租税法 (災害税制、公共事業税制及び事業承継税制など、企業活動や個人生活における税制の在り方について研究しています。)				
⑦	税法総論、税法各論、現代社会と法、大学入門セミナー、専門演習 など				
⑧	租税は私たちの生活に密着し、あらゆる経済活動に深くかかわっています。したがって、税法を勉強することは逆アプローチとして法律、経営、経済、簿記会計を理解することにもつながります。税法を通じて実際の経済活動を覗いてみませんか。				

①	能登 真規子	のと まきこ	②	准教授	
③	noto@biwako.shiga-u.ac.jp		④	616	
⑤	水曜日の昼休み (12:10~12:40) e-mail での相談も可				
⑥	民法 (債務の保証や身元保証に関する研究をしています。)				
⑦	民法総則【夜】、債権法【夜】、大学入門セミナー、専門演習 など				
⑧	大学の4年間は自分の生き方をゆっくり考えられる時期でもあります。いろいろなことに挑戦して、視野を広げましょう。				

①	坂田 雅夫	さかた まさお	②	准教授	
③	masa-sakata@biwako.shiga-u.ac.jp		④	521	
⑤	金曜日の昼休み (12:20~12:50)				
⑥	国際法 (経済関係の国際協定の研究をしています。とくに人権や環境の保護を経済関係の協定にどのように組み込んでいかに関心を持っています。)				
⑦	国際法、国際経済法、大学入門セミナー、専門演習 など				
⑧	大学生活、何かに打ち込んでください (勉強でも、サークルでも、アルバイトでも、何でも良いのです)。卒業式で4年間何していたのか自分で胸張っていえるようになってください。4年、想像以上に短いです。油断していると、あっという間ですよ。				

①	須永 知彦	すなが ともひこ	②	講師	
③	sunaga@biwako.shiga-u.ac.jp		④	414	
⑤	金曜日の昼休み。他の曜日・時間帯を希望する場合は e-mail で連絡のこと。				
⑥	民法 (契約を締結して履行までに間があり、その間に当事者の一方が倒産状態に陥りそうでも履行が確保できない場合に生じてくる問題、契約の解除に関する様々な問題等)				
⑦	法学(コア)(昼:春・秋)、物権法、法システム論特殊講義 (不法行為法)、外国文献研究 など				
⑧	・講義に出てメモをとって後で見直してみてください。必ず疑問が沸いてくるので、教員に質問しましょう。ひねくれたモノの見方もしてみましょう。				

思考情報システム講座

思考情報システム講座には ①哲学・心理学・情報科学・体育学の教員が所属し、②学問の基礎的領域の研究を通じて、人間の総合的・全体的な知の構築を目指しています。



「思考システム」分野

哲学・科学哲学・認識論・
心理学・認知心理学入門

「情報システム」分野

メディア情報論・ネットワーク概論
情報システム論・知能情報論
情報科学、論理学、情報通信の仕組み


「健康管理システム」分野


スポーツ科学・身体運動の科学
スポーツ身体論・スポーツ文化論
体力健康論


平成31年度開講科目


(昼間主)


スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ(道上、榎本、小倉)、身体運動の科学(道上、榎本、小倉)、スポーツ文化論(榎本)、哲学Ⅰ(西村)、科学哲学Ⅱ(西村)、Society and Social Science(西村)、倫理学概論[教職科目](西村)、論理学(西村、渡邊)、人間と心理(谷上)、認知心理学(谷上)
メディアと情報[教養科目](渡邊)、情報科学Ⅰ・Ⅱ(富田)、情報理論[DS科目](富田)


①	道上 静香	みちかみ しずか	②	教授	
③	mitikami@biwako.shiga-u.ac.jp		④	5 3 9	
⑤	月曜日の昼休み (体育館へ)				
⑥	スポーツコーチ学 <ul style="list-style-type: none"> ・硬式テニスの各種技術のバイオメカニクス的研究 ・硬式テニスの映像及びゲーム分析に関する研究 ・ナショナルテニスチームの強化サポート体制に関する研究 				
⑦	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ (身体を基盤として実施するので出席を重視する) 身体運動の科学 (スポーツ科学を踏まえ将来の健康な生活に活用できるようにスポーツ種目を中心に実施する) *詳細は、サクセスを参照のこと				
⑧	「 Slow and steady wins the race. 」				


①	榎本 雅之	えのもと まさゆき	②	准教授	
③	m-enomoto@biwako.shiga-u.ac.jp		④	6 1 4	
⑤	火曜日の昼休み (体育館へ)				
⑥	スポーツ史 <ul style="list-style-type: none"> ・アイルランドの近代スポーツに注目し、スポーツと政治、宗教の関係について研究しています。 ・アイルランド移民とフットボールの歴史について研究しています。 				
⑦	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ (身体を基盤として実施するので出席を重視する) 身体運動の科学 (スポーツ科学を踏まえ将来の健康な生活に活用できるようにスポーツ種目を中心に実施する) *詳細は、サクセスを参照のこと スポーツ文化論				
⑧	学生時代、様々な‘チャンス’がありますが、全く同じチャンスはありません。一つ一つのチャンスを大切にできるように、いい準備をいつも心懸けて下さい。				

①	小倉 圭	おぐら けい	②	特任講師	
③	kei-ogura@biwako.shiga-u.ac.jp		④	613	
⑤	月曜日の昼休み (体育館へ)				
⑥	スポーツコーチング学 <ul style="list-style-type: none"> ・専門種目である野球を中心としたバイオメカニクス的研究, 事例研究, ゲーム分析などを行っています。 				
⑦	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ (身体を基盤として実施するので出席を重視する) 身体運動の科学 (スポーツ科学を踏まえ将来の健康な生活に活用できるようにスポーツ種目を中心に実施する) *詳細は、サクセスを参照のこと				
⑧	何事も「とりあえずやってみる」精神で、たくさん失敗をしてください。そこから一つひとつ学び、地道に成長していきましょう。				

①	渡辺 凡夫	わたなべ つねお	②	教授	<p>お前達を社会システム学科に同化する!</p> 
③	bonkun@biwako.shiga-u.ac.jp		④	601,2 階端末室	
⑤	メール。可能な人はテレパシー				
⑥	<p>・情報工学専攻、画像処理のビジョン（人間の視知覚）の研究 ・GIS（地理情報システム）。</p> <p>企業からの技術指導依頼が多く、モバイル開発や障害者用のシステム設計や提案が多い。WEB-DBによる新たな防災支援活動を始めたいところだが、ボランティアの課外活動の方が今では主たる業務になっている。おかげで土日・祝日のみならず平日もバレーボール業務三昧...</p>				
⑦	<p>(演習) …大学入門セミナー、基礎演習、専門演習 (講義) …メディアと情報（教養科目・夜）、論理学（昼）、論理学（夜） (大学院) … 知能情報論特論Ⅱ</p> <p>どの科目もとてもイカガワシイ内容なので、未成年者は保護者の同意を得るように</p>				
⑧	<p>高校と異なり大学では各自の行動に責任が生じる。受験から開放され自由な気持ちであろうが、就職活動も早まり大学生活は「光陰矢の如し」。目的を決め、周囲に流されないよう取り組んでほしい。</p>				

①	富田健一	とみたけんいち	②	准教授	
③	ktomita@biwako.shiga-u.ac.jp		④	5 4 3	
⑤	水曜日の昼休み。事前に連絡をください。				
⑥	<p>符号理論 情報通信分野で使われる誤り訂正符号の性能評価に関する研究をしています。</p>				
⑦	情報科学 I,II 情報理論 (DS 学部)、専門演習 I~IV				
⑧	無駄な経験などありません。何にでもチャレンジしてください。				

①	西村 正秀	にしむら せいしゅう	②	准教授	
③	snishimu@biwako.shiga-u.ac.jp		④	5 0 3	
⑤	春学期：月曜日昼休み、秋学期：金曜日昼休み				
⑥	哲学（知覚の哲学、認識論、近世哲学史）				
⑦	哲学 I、科学哲学Ⅱ、論理学（コア科目）、Society and Social Science、倫理学概論（教職科目）、専門演習 I・II				
⑧	物事を順序だてて考え抜く癖をつけてください。				

①	谷上 亜紀 たにがみ あき	②	准教授	
③	tanigami@biwako.shiga-u.ac.jp	④	609	
⑤	月曜日の昼休み/ 電子メール (tanigami)			
⑥	認知心理学。とくに記憶。			
⑦	人間と心理、認知心理学入門、外国文献研究、行動科学特講 I (大学院)、演習 I、II、III、IV			
⑧	大人になった後で振り返ったときに、大学時代にはこんなことを頑張った、と言えるような数年間であるといいですね。			


国際文化システム講座

講座名の「国際文化システム」という言葉は、「国際」と「文化」と「システム」に区分することができます。このなかから2つを取り出してつなげると、「国際文化」「国際システム」「文化システム」という語をつくることができます（「文化国際」や「システム文化」などはこのさい省略します）。ここで「システム」という語の意味を仕組みや方法や規則と考え、国際関係の仕組みや文化の規則という事柄や事象があると、なんとなく理解されることでしょうか。では、「国際文化」とはなんでしょうか？


たぶんまだ(?)、わたしたちはそれをうまく指し示すことのできない時代や社会に生きているのでしょうか。では「日本文化」といわれたらどうでしょうか？きっと多くのひとにとって、あれこれと「日本文化」の具体例をあげることは容易でしょう。それどころか、たとえそこにいったことがなくとも、「韓国文化」や「ドイツ文化」や「メキシコ文化」なるものを、わたしたちの多くが心に思い浮かべられるでしょう。ではひるがえって、「彦根文化」や「近江八幡文化」や「蒲田文化」とはなんでしょうか？（蒲田はぼくの生まれたところですよ）「滋賀文化」はあるのでしょうか？（滋賀文化短大は八日市にありますよ）


国ごとに文化を区切ることがあたりまえのように考えられていますが、それを疑ってみましょう。「木を見て森を見ない」とは視野の狭さをあげつらう喩えですが、わたしは1本ずつよく木を見ることをすすめます。なぜか。森には1つとしておなじ木はないからです。森を全体としてみるときには、すべて異なる木の1本1本の個性が切り捨てられてしまうのです。「日本文化」という考え方にも、それとおなじ落とし穴があるとわたしは思います。でも問題は「日本文化」をただ否定すればよいのではなく、なぜわたしたちはそうした考え方になじんでいるのか、なぜわたしたちは「日本文化」があることをあたりまえのように感じているのか、そうしたわたしたちのものの見方や考え方を問う必要があります。

となると、わたしが担当する「日本文化史」も「日本社会・文化論」も、羊頭狗肉の講義かもしれません。でも、「日本文化に親しもう」「日本文化を大切にしよう」「日本文化は味わい深い」というだけなら、大学で講義をする必要はありません。だって、ほとんどのひとが「日本文化」はまちがいなくあると思って疑わないのですから。——という天邪鬼（あまのじゃくと読む）もいるのが「国際文化システム講座」です。（阿部安成）

①	青柳 周一	あおやぎ しゅういち	②	教授	
③	aoyagi@biwako.shiga-u.ac.jp		④	301 (附属史料館)	
⑤	水曜日以外は史料館にいます。				
⑥	日本近世史。主に、近江八景などの名所と地元地域の人びとの生活・生業との関わりや、名所を訪れた旅行者の行動や意識について研究しています。観光地の歴史を考える「観光地域史」や、旅行が生み出した文化に注目する「旅行文化史」の研究者だと、自分では名乗っています。震災との被災した地域の歴史と現状、沖縄の歴史、朝鮮半島の歴史などにも関心があります。				
⑦	古文書解読A1・A2、古文書演習、地域社会・文化論（日本社会文化論）				
⑧	史料館の館長（&専任教員）という立場上、館の業務（収蔵している古文書の調査・整理・活用など）を優先するため、他の先生方にくらべると学生のみなさんと顔をあわせる機会が少ないですが、史料館に来てもらえば展示の案内などします。せっかく滋賀大に入ったのだから、史料館にも足を運んで近江の歴史に触れてみてください。				

①	阿部 安成	あべ やすなり	②	教授	
③			④		
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					


①	出原 健一	いではら けんいち	②	教授	
③	idehara@biwako.shiga-u.ac.jp		④	618	
⑤	金曜日の昼休み				
⑥	認知言語学。人間の言語構造と一般認知能力（五感等）との関わりについて研究しています。簡単に言うと、皆さんが高校時代に理由もなく丸暗記させられた文法に、何らかのもっと分かりやすい理由があるのではないかと考えています。				
⑦	大学英語入門、英語Ⅰa、英語Ⅱ、英語演習、異文化間コミュニケーション論、専門演習Ⅲ・Ⅳ				
⑧	「誰だって楽な方がいい。難しいことは考えたくないし、逃げたくなる。でも、本当に楽しく笑うためには、踏ん張って頑張らなきゃいけない時だってあるの！」（『スマイルプリキュア』より）				


①	金子 孝吉	かねこ たかよし	②	教授	
③	kaneko@biwako.shiga-u.ac.jp		④	620	
⑤	水曜日 16:20-16:50 (その他の時間帯はメールで事前に照会して下さい)				
⑥	文化システム論に関する総合的研究。「文化」を潜在的な構造として捉え、ある社会集団に所属する人間が行動する際の究極的基準となる「内面的原理」(価値観、世界観ないしは信念の体系)を探るのが「文化システム論」の主目的。その他、近代の日本・西欧の文化・社会についての研究も行っています。				
⑦	文化システム論A、独語 Ia、独語 A・B、専門演習 I・II・III・IV				
⑧	<p>趣味は、植物観察、美術館巡りなど。彦根城の濠のオニバスの復活にも取りくんでいます。学生たちに一読をすすめる本：現代思想の重要源流の一つをやさしく学ぶことができる内田樹『寝ながら学べる構造主義』（文春新書）、民俗学の優れた入門書である宮本常一『塩の道』（講談社学術文庫）、そして高田宏『猪谷六合雄』（平凡社ライブラリー）。3冊目の書で高田宏氏が描く、日本におけるスキーの先駆者・猪谷六合雄（くにお）の、自然の中で自由におおらかに生きていく姿は、多くの現代人が心を共振させると思います。その他、大学でレポートや論文を作成する際の参考文献の読み方をわかりやすく教えてくれる東郷雄二『打たれ強くなるための読書術』（ちくま新書）や、人々が桜に浮かれる季節に一人静かに読むにふさわしい佐藤俊樹『桜が創った「日本」』（岩波新書）も、新入生が4月に読む本としておすすめします。</p>				

①	Sean Daniel Gaffney	シヨーン・ダニエル・ガフニー	②	特任講師
③	seanyuki@hotmail.com		④	622
⑤	金曜日 1限・5限			
⑥	Writing, Communicative competence			
⑦	英会話基礎、英語 Ib、英語 II、Communication Skills			
⑧	Communicate! It's fun. I hope you will take advantage of the opportunity to practice the English you have already learned.			

①	菊地 利奈	きくち りな	②	准教授
③	kikuchi@biwako.shiga-u.ac.jp		④	621
⑤	金曜日のお昼休み (メールで事前に連絡してください)			
⑥	いわゆる「文学者」です。350部しか出版されないような詩集を読みあさり、研究するのが仕事です。特に20世紀以降の現代詩を専門分野としています。現代アイルランド詩、モダニズム以降の日本語詩、比較文学、詩の翻訳(日本語⇄英語)・翻訳論などの分野で研究をすすめ、論文を書いています。			
⑦	大学英語入門、欧米の文化、アメリカ社会文化論、英語 II、英語演習			
⑧	私は、日本とオーストラリアの大学で学び、日本とアイルランドとイギリスの大学院で学びました。就職したら、なかなか長期で海外へ行くことはできません。大学生の間にしかできないことに積極的にチャレンジして、たくさん本を読み、悔いのない大学生活をおくってください。			

①	笹尾 純治	ささお じゅんじ	②	准教授	
③	sasao@biwako.shiga-u.ac.jp		④	402a	
⑤	火曜日 11:30~12:30				
⑥	<イギリス詩> 古代から現代に至る英詩の流れ、その伝統（時代を通じて変わらぬもの）と 変遷（時代によって変わってゆくもの）について常々考えています。				
⑦	大学英語入門、英語Ⅰa、英語Ⅱ、英語演習				
⑧	大学の4年間が有意義なものとなるか否かは、他の誰でもないあなた自身の努力次第です。興味を持って打ち込めるもの（それは必ずしも学問でなくてもかまわないと私は思います）を一つでもいいですから早く見つけてください。				

①	Paul Tanner	ポール タナー	②	講師	
③	pdtanner@biwako.shiga-u.ac.jp		④	6 2 2	
⑤	Wednesday 4:00-5:00				
⑥	Teaching English as a Second Language (TESL) Essay writing and error correction use of dictation, timed writing				
⑦	英会話基礎、英語Ⅰb、Communication Skills、WritingⅠ・Ⅱ、Academic Writing				
⑧	Take advantage of the opportunity to use English, and improve your language ability.				

①	鍋倉 聡	なべくら さとし	②	教授	
③	nabekura@biwako.shiga-u.ac.jp		④	5 2 0	
⑤	火曜日の昼休み				
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポールの「多人種主義」と公共住宅団地に関する社会学的研究 ・華人社会・中国社会研究 				
⑦	社会学概論、専門演習Ⅰ・Ⅱ、中国語ⅠaH・ⅠaA、中国語演習H・A				
⑧	今まで漠然と当たり前だと思ってきたことを問い直すことが、既存のシステムについて考えるにあたって欠かせません。その際に有効なこととして、親や学校に頼らず自分の力で一度国外へ出てみる事が挙げられます。初めの一歩としては、シンガポールあたりがおすすめです。				

①	野瀬 昌彦	のせ まさひこ	②	准教授
③	ma-nose@biwako.shiga-u.ac.jp		④	511
⑤	事前にメールで連絡してください			
⑥	対照言語学, 社会言語学, 言語接触, 研究対象は日本語, 英語, フィン・ウゴル語, 中国語, パプアニューギニア及び太平洋の言語です。			
⑦	大学英語入門など			
⑧	入学おめでとうございます。楽しみながら英語やその他外国語を学んでくれることを期待します。			

①	坂野 鉄也	ばんの てつや	②	准教授
③	t-banno@biwako.shiga-u.ac.jp		④	504
⑤	水曜日 (12:00~12:30) e-mail 等で事前に予約のこと			
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカ、特にパラグアイの歴史人類学、植民地社会論、先住民研究 ・高等商業学校教育史 ・滋賀県における人の移動の歴史 			
⑦	スペイン語 I a、スペイン語演習 (上級)、専門演習 I・II・III・IV			
⑧	当たり前だと自分が思っていることを疑う。それがすべての始まりです。			

①	福浦 厚子	ふくうら あつこ	②	教授
③	atsuko@biwako.shiga-u.ac.jp		④	522
⑤	水曜日、またはメールでどうぞ。			
⑥	文化人類学、東南アジアの宗教など			
⑦	中国語 I、中国語演習、専門演習 III、専門演習 IV、中国語 A、中国語 B など			
⑧	入学おめでとうございます。夢と希望に満ちた新しいスタートですね。その気持ちを忘れず、努力してください。			

①	藤岡 俊博	ふじおか としひろ	②	准教授
③	to-fujioka@biwako.shiga-u.ac.jp		④	4 2 0
⑤	メールで連絡してください			
⑥	専門はフランスの現代哲学ですが、広くヨーロッパの思想史に関心があります			
⑦	フランス語 Ia、フランス語 Ib、フランス語演習、フランス語演習（上級）、地域社会・文化論（秋学期）			
⑧	題名しか知らないような文学作品の古典を実際に読んでみましょう。読んだという達成感はもちろん、それ以上に得るものがかかりますよ。			

①	Karl Hedberg	カール ヘッドバーク	②	講師
③	hedberg@biwako.shiga-u.ac.jp		④	6 2 3
⑤	水曜日 5 限			
⑥	Motivation, material development, and learning strategies			
⑦	英会話基礎、英語 Ib、Communication Skills、Global Course (Presentation and Debate)			
⑧	English is a tool for success. Free your mind and your *** will follow.			



①	真鍋 晶子	まなべ あきこ	②	教授
③	akiko-m@biwako.shiga-u.ac.jp		④	6 0 6
⑤	水曜日 14:30-15:00			
⑥	エズラ・パウンドを中心に広がるモダニズムから現代に至る英語圏の文学、特にアメリカとアイルランドの詩、演劇、小説(W.B. イェイツ、ヘミングウェイ、小泉八雲など)を中心に研究しています。最近では、日本の能狂言といった日本の伝統芸能や俳句などの文学の西洋への影響も研究すると同時に、演劇やコンサートなどの企画運営もしています。			
⑦	大学英語入門、英語 Ia、英語演習、言語と文化（教養科目）、英語（夜間主）			
⑧	受験英語から解放されてほっとされているみなさんが、あらたに大学で英語を学ぶ、さらにいえばことばを勉強するとはどういうことなのかを一緒に探りたいと思います。コミュニケーションのための英語、特に発信する力は重要です。同時にそのことばの用いられている国・地域の文化を理解してことばを身につけましょう。			

